

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Pregnant Women's Awareness of Social Capital in the Great East Japan Earthquake-Affected Areas of Miyagi Prefecture: The Japan Environment and Children's Study.

和文タイトル: 東日本大震災後の宮城県被災地における妊婦のソーシャルキャピタルの実態調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Disaster Medicine and Public Health Preparedness 巻: 6 頁: 355 年: 2017 月: 6

筆頭著者名: 西郡 秀和

所属UC名: 宮城UC

目的: 東日本大震災後の宮城ユニットセンター(UC)調査対象地域での妊婦のソーシャルキャピタル(SC)の実態を明らかにする。

方法: 2011年6月以降回答・2011年12月までに出産した妊婦、全国(宮城・福島UCを除く)6453名、宮城県内陸部668名、沿岸北部203名、沿岸南部127名を対象にソーシャルキャピタル(9項目)を調査した。

結果: たいていの人は信頼できるか?という質問に対して「はい」と答えた妊婦は、全国32.9%に対して、宮城県沿岸北部は23.7%と有意に低かった。地域の治安はいいと思うか?という質問に対して「いい」と思うと答えた妊婦は、全国62.4%に対して、沿岸北部は51.7%と有意に低かった。ご近所の人々はお互いに助け合っている?という質問に対して「はい」と答えた妊婦は全国56.7%に対して、沿岸北部は69.0%と有意に高かった。

考察:(研究の限界を含める) 災害と妊婦のSCに関する調査は、世界で初めての報告である。震災後に絆が注目されたが、宮城県被災地では、全国と比較して総じてSCは高くなかった。このことは被災地では、マスコミのイメージのように、SCは必ずしも高いことを示している。本研究の限界として、震災前後の比較ができなかったため、震災による影響なのか等の検討はできなかった。

結論: 東日本大震災後の宮城県被災地の妊婦は、全国と比較して、総じてソーシャルキャピタルは高くはなかった。